

学校の始まり

後藤 文男（本学教職研究科准教授、国語教育学）

子供たちの学び舎としての「学校」は、中国ではすでに3000年以上前からありました。もちろん、庶民も含めたすべての子供たちのためというより、特別な階級の特別の子供たちのためだったのですが……。その子供たちがどんなところで学んでいたのか、それを教えてくれるのが「学校」の「学」という字です。



學／金文 3000 年前

3000 年前の古い文字（金文）は、屋根のある建物の中に子ども（子）がいる形です。その屋根の上には×が二つ、「扌」と「攴」が左右にあります。現在私たちが使っている「学」の字は上側が整形されていますが、旧字体では3000年前の字体とほぼ同じ「學」と書かれていました。3000年前とほぼ同じ字体をつい最近まで使っていたのです。

その「學」は、屋根に×が二つある建物の中で子供が先生の手ほどきを受けて学んでいる様子を表す字です。×の左右にある形（扌 攴）は手ほどきする「左右の手（爪）」を表しています。

では、×が二つある建物とはどんな建物だったのでしょうか。その建物が、日本にあります。それは、神社の本殿です。屋根の左右に×形の木（「千木」と呼ばれています）が飾られている建物です。

その本殿の屋根にある×形の飾りは何を表しているのでしょうか。「×」の起源を探ると、何かを閉じ込めること＝封印の意味や悪いもの



が取り付かないようにする（京都平野神社の千木）
魔除けの意味があることがわかります。本殿の場合は、

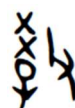
神様のいる神聖な建物に悪いものが取り付かないよう×形の飾りをつけて守っているのです。

古代文字（金文）を見ると、学校の一番古い建物にも同じ魔除けの×形の飾りがつけられていたことがわかります。3000年前の子供たちの学ぶ場は千木のある神聖な場所だったのです。そこで、先生が手取り足取りしながら子どもたちを教えていました。



校／篆文 2200 年前

さて、学校の「校」は「木へん」に「交」と書きます。「交」は人が足を交差させている姿からできた字です。それで、「交わる」という意味を持ちますが、その交差が木でできていることを示す「校」は、まさに神社の屋根にある交差した木＝×形の千木を表す字です。「学校」という熟語を作る二つの字は、ともに屋根に×形の千木のある建物を表す字だったのです。



教／甲骨 3300 年前

最後にもう一字紹介します。実は、古い文字（甲骨）を見ると、教育の「教」という字にも×が入っています。子ども（子）の上に×が二つあります。現在の字では「教」の左側の「子」の上にある「攴」が×の名残です。教えることは×型の飾りのある神聖な場所で行われていたことを示します。「教」の隣の「攴」＝攴（ぼく）は、棒（鞭）を持つ右手を表しています。教えるとは鞭を手にとって子どもたちを「しつける」ことでもありました。はるか昔の時代でも、先生は子供にとっては怖い人だったのかもしれません。